



男女ともに働きやすい職場づくりに向けた学習会

男女ともに働きやすい職場づくり

岩手県商工労働観光部との共催



よい会社をつくらう。よい経営者になるう。よい経営環境をつくらう。

岩手県中小企業家同友会 | <http://www.iwate.doyu.jp/> |

「中小企業の日・中小企業魅力発信月間」関連イベント 「男女ともに働きやすい職場づくりに向けた 学習会」を県と共催で開催

岩手同友会と岩手県商工労働観光部共催の「男女ともに働きやすい職場づくりに向けた学習会」が9月13日、東京海上日動ビル会議室で32名の参加で開催されました。

中小企業憲章の制定を受けて昨年までは「中小企業憲章のつどい in 岩手」として7年間継続開催、県内各地で取り組んできた中小企業振興基本条例の実践事例を中心に紹介し、各自自治体での条例制定

に大きく貢献してきました。

昨年7月20日を中小企業の日として制定されたことを受け、今年からは中小企業魅力発信月間関連イベントとして新たに県と共催で取り組むことが決まり、同友会企業と岩手県女性の就業促進部会委員、行政職員の皆様との勉強会として新たなスタートを切りました。

立場を越えてともに 学び合う場に

冒頭挨拶に立った岩手同友会代表理事の吉田ひさ子氏は「今回は県の女性の就業促進部会の皆さんと同友会、そして東京海上日動火災保険会社の協力で初めて開催されます。本来は障がいのある方、お年を召した方も含め、「誰もがともに働きやすい職場づくり」となるべきものですが、あえて今回は「男女ともに」と表記しています。いかこの言葉がなくなることも願ってのものです。

大きく社会環境は変わってきていますが、まだまだ多くの企業、職場で気づかないうちに格差が出てしまっていた

り、働きにくい環境をそのままにしてしまっていたり、社員の声が出しにくい状況があるかもしれません。経営者として互いに気づく場に、またそれぞれの職場で誰もが働きやすい環境を実現するため、ともに学び合って参りましょう」と話し、学習会がスタートしました。

経営理念に共鳴して 入社を決めた

初めに岩手同友会の女性部会、そして県の女性の就業促進部会とそれぞれから日常の取り組みの様子が紹介されたあと、3人の実践報告に移りました。

一番目として、「初めての女性社員の採用と働く環境づくりへの挑戦」男性中心の職場からの脱皮をめざして、をテーマに、杜陵テクノ(株)代表取締役 川村武司氏が報告に立ちました。

これまで技術者が中心だった同社では、経営指針の成分化と同時進行で働く環境づくりのビジョンを掲げ、社屋の新築や社員一人ひとりがやりがい、生きがいを持てる職場づくりに取り組んできました。しかしながら、「長時間働くのが当たり前」という意識はなかなか変わらず、掲げたものの忙しさの中でそのままになっ

てしまう状況がありました。

あるとき突然、20代の女性の方が採用試験に応募してきました。技術者は男性と思い込んでいた川村氏は迷いますが、「二人一人の持ち味を発揮できる企業文化を形成し地域の未来と共に私たちの夢を実現します」との経営理念に共鳴して応募した、との話に採用を決断します。

その後出産を経て子育てをしながらの業務を支えるために「いわて子育てにやさしい企業」の取得など、社内全体で誰もが働きやすい職場環境をつくるために話し合いを重ね、現在では一人ひとりが会社と個人の夢を共有し、実現へ向けて歩みはじめています。川村氏からは、現在進行中の実践事例が紹介されました。

それぞれの取り組みから 学び合う

また実践事例の2つめとして信幸プロテック(株) 専務取締役 村松直子氏から「一人ひとりの社員が主体になった職場づくり」女性社員、若手社員がワクワク楽しく働ける仕組みを実現くをテーマに、若い社員から75才の社員まで3世代に渡ってともに育ち合う企業づくりの実践が紹介されました。(次号で詳報予定)そして最後に「わが社の

『ジェンダーギャップの解消』の取り組み」をテーマに東京海上日動火災保険会社から課長代理の佐藤綾乃氏に報告いただききました。佐藤氏は自身の体験から、ある一日を例に、早朝5時からの勤務と午前中の子どもの参観日参加、そして帰宅後に午後はオンラインでテレワーク出勤という働き方が実際にできる職場であることを紹介。先進的な事例に会場からは驚きの声がありました。

その後のグループ討論では各社の人に関する悩みや互いの職場の環境について率直な意見が交流され、60分の討論時間ではまったく足りない程でした。

今日の学びを二つでも 実行に移そう

全体のまとめに立った県商工労働観光部副部長兼商工企画室長の高橋孝政氏は、様々な経験が交流された素晴らしい機会だった。ぜひこの学びを、一人ひとりが一つでも実行に移すことが大切なこと、とご提起いただきました。

記念撮影では「今回で終わりにせず、一年実践して互いに報告する学び合いを続けていこう」との意見でまとまり、次年度以降の継続した開催を確認した時間となりました。

2022 北海道東北ブロック 支部長・地区会長交流会

北海道東北ブロック支部長・地区会長交流会が9月1日（木）～2日（金）、宮城県仙台市のパレスへいあんに於いて開催されました。北海道、東北各地同友会から105名の参加で3年ぶりに対面で行われましたが、途中何度もオンライン開催が提案され

る中、設営を担当した宮城同友会の鍋島代表理事が対面での開催の意義を確認、晴れて北海道東北ブロックの支部地区役員の方々が仙台に集い、久しぶりのリアル開催で行われました。岩手同友会からも16名が参加して熱心に学び合い交流しました。

岩手から参加した16名の皆さんは、「ぜひ10月4、5日に開催される岩手での中同協役員研修会でも、今日のような素晴らしい雰囲気、意欲が湧く場をつくろう」と想いを共有した時間となりました。以下参加された皆さんの声をご紹介します。

（株）盛高商店
代表取締役 工藤 尚氏

第一日は北海道同友会曾根一代表理事の企業1000件訪問、青森同友会安保支部長のかかわり合う支部づくりについて報告され、それぞれの地域で現在どんな課題に取り組み、何にぶつかっているのか率直に出し合い、真剣な議論が展開されました。引き続き行われた2日目午前中の実践報告では、宮城同友会後藤氏の南三陸の戸倉かき部会の復興と協働の11年の取り組みが話され、津波で多くの方が亡くなり地域が壊滅的な被害を受ける中で、立場や意見の違いを乗り越え地域が結束していった実践事例に感動の輪が広がりました。その

後の討論では、それぞれの地域を思う決意に、グループ討論でじっくりと各地に持ち帰る想いを醸成させた時間となりました。

（株）ニコニコ総合企業
代表取締役 大崎博晃氏

今回の実践報告で北海道同友会の曾根氏の報告を聞き、本当に楽しんで会員訪問をして同友会を伝えていく姿を感じました。今、自分自身、地域の企業に声掛けをすることに躊躇していたところがありません。現在宮古地域での例会を毎月取り組み始めており、地域で広げていくことをもう一度一から頑張ってみようと思いました。

グループ討論では他県の皆のお話を聞きながら、同じ悩みを抱えていること。そして、その悩みを実際リアルに討論することができたので、改めてグループ討論の大切さを実感しました。

東北酸素（株）
代表取締役 千葉 厚氏

各地の役員経験者や様々な年代の方々と交流する機会をいただきました。沢山の学びをいただきました。なかでも一番学んだのは、何事もコツコツとあきらめず地道に実践していくことの大切さでした。3つの報告はそれぞれに各地の実践の

特長が出ていて、深く学ぶことができました。また、グループ討論では、各県それぞれ違いはありますが、共通しているのは「会社も同友会も良くしていきたい」という思いを感じたグループ討論でした。

信幸プロテック（株）
専務取締役 村松直子氏

今回初めての参加だったため不安がありましたが、参加してみると同友会歴や立場は関係なくざっくばらんに語り合う雰囲気、現在の悩みや問題をお互いに話し合い、たくさんの方の気づきや学びがありました。私は委員会に所属しておらず、支部・部会からの視点しかありませんでしたが、他県の例では課題解決の場である委員会を重要と捉えており、会員に委員会の種類や内容をいかに周知し活発に活動するかに力点を置いていて、委員会メンバーが支部に学びを持ち帰り毎月の例会テーマとして共有していることを知り、組織を全体像でとらえて全体を活性化していく視点を持つことができました。今後他県と情報交換したり例会交流したりする機会からお互いの課題解決につながっていききたいと思います。

支部・地区通信

県北支部はやて地区

県北支部では今年度から岩手山麓地区とはやて地区で交互に例会を開催しています。

はやて地区では、西根地域での初めての例会を7月20日水曜日にビジネスホテル西根で開催しました。

はやて地区は二戸市を中心に八幡平市、葛巻町、久慈市など広域をカバーしています。が、なかでも若手の農業、食関連の経営者が多く占めている。

農業の課題を解決したい

ます。今回も農業経営者、自治体職員など35名が参加。会場に入りきれない程の人数と地域への想いに、熱気を帯びた例会となりました。

報告には報告者(株)馬場園芸代表取締役 馬場 淳氏に立っていただき、「あなたは未来に何をなさいますか？」「食べる人本意、畑から届ける最高の贅沢」をテーマに、たっぷりの時間をとってお話いただきました。

岩手県二戸市浄法寺町で先祖代々211年続く農家の9代目として生まれた馬場氏は、20歳で就農し、農業をスタートしました。「年商1億円農家になる」という目標に向かい、日々奮闘する中で、働く社員の皆さんも家族も楽しく、経済面も時間も、もっとと楽になってほしいと思って取り組んできました。これは農業の課題を痛切に感じているからでもあります。

未来に繋げたい熱い思い

しかし結果として労働時間が増え、利益は思ったよりも

残らない状況に。今後の方向性がわからなくなっていた時に、中小企業家同友会と出会い、当時の自分には経営の目的が見えていなかったことに気が付き、経営指針を成文化し、実践を続けました。

なかでも大きな刺激になったのが、岩手同友会のエネルギーシフト欧州視察でした。ドイツ、スイス、オーストリアを訪問しましたが、毎日見るものすべてがスケールが違いました。地域って何だろう。と深く考える時間となりました。

帰国し、のちに地域のブランド製品と成長していったホワイトアスパラガス「白い果実」ですが、生み出てきた背景には、そうした様々な経験と馬場氏の志がありました。

「どんな困難があっても折れることのない、志の力」馬場氏は、どうしてここまで具現化できたのか聞かれ、質問への回答で答えました。その背景には未来に繋げたい熱い思いが根底にありました。

溢れる想いを連携し、地域を動かす力に

今回はゲストや行政職員の皆さんも多数参加いただきましたが、感想では「変えたい、未来に繋げたい熱い思いが農



ゲツドアーズで県央支部の8月例会が行われました。今期の第16期人を生かす経営・経営指針実践塾に県央支部から、(株)高橋農園 高橋和久氏、古屋敷農園 代表 菊池広樹氏、多田農産 代表 多田貴博氏、山口農園 代表 山口海杜氏4名が受講。今回はその皆さんにご登壇いただき、「岩手の農業は俺たちにまかせろ！」経営指針実践塾を終えてこれからが本番をテーマに、パネルディスカッション形式でご報告いただきました。

これからの農業を担う4名の決意

業や地域を変える力になっているのだと実感できた」「何のために農業をやっているのか、何のために会社をやっているのかも一度深く考えた」「孤独感を感じていたが、一人では何もできないのだとわかった。同じ想いの地域の仲間が連携、連帯感を持つて壁を突破していくことが必要」など、初めての地で、溢れんばかりの想いを共有した時間となりました。

県央支部
8月22日(月) 花巻市の力

コーディネーターの桶田陽子氏より「経営に真剣に取り組み農業経営者が増えると、地域や農業がどう変わっていくかと思うか」が提起され、報告者4名にそれぞれ伺いました。「今回経営指針書を成文化したことで、自社や地域が発展する道筋の考え方を学ぶことができた。」「農業経営に迷っている人や次世代の若い人に自社のビジョンづくりを勧めたい」「農業が地域を支える一つの会社経営になり得るということを知ってほしい。」「農業以外の様々な企業を取り組むことで、多様な角

度から地域の課題を一緒に
なつて解決していけるよう
になりたい」など、4人がそ
れぞれ力強く、指針づくりに取
り組んだ自信が滲み出る報告
をいただきました。

地域の課題は自分ごと として捉える

報告を受けてのグループ討
論では、「地域貢献と経営者
が果たす役割」について討論
しました。

討論では「地域の未来を考
えると、各社が存続し続ける
ことが最も大切なことでは」。
そして「地域の課題に踏み込



んで関わりを持ち、地域のこ
とを自分ごととして捉えるこ
と」。更に「かかわり合いの
中から新たな仕事を作り出
し、雇用を生み出していくこ
と、それこそが地域の発展に
つながっていくのでは」など
の意見が出され、それぞれが
「自分ごと」として持ち帰っ
た例会となりました。

県南支部

県南支部8月例会が、8月
23日（火）一関文化センタ
ーで行われました。今年度に入
り、報告者との打合せをしっ

かりと重ね例会づくりを行っ
ている県南支部ですが、今月
は世嬉の一酒造(株) 代表取締
役社長 佐藤航氏をお迎え
し、「走り出しながら考え
る」～常に新たな事業へ挑み
続けて～をテーマに例会を開
催しました。

走り出しながら考える

「世の人々が嬉しくなる一
番の酒づくりを目ざす」とい
う思いで世嬉の一と命名され
た同社は、2012年に佐藤
氏が社長に就任されてから10
年。この間、常に現業をもと
にした複数の事業を考え、い
つでも新たな事業を開始でき
る体制を準備してきました。

特にコロナ禍の中での2年
前からの、社会全体からの酒
類への風当たりや強さに、大
打撃を受けます。しかしなが
ら同社では、様々な試みを社
員と取り組み、酒が売れない
中で、次々にヒット商品を生
み出し、ここまでの難局を突
破してきました。その背景に
は、「世嬉の一のDNAは決
して変えない」という不変の
考え方と、経営理念とともに
社員と共有してきた経営ビ
ジョン、そして世嬉の一の価
値を現況に合わせて大きく変
化させるという、大胆な社内
変革がありました。

3割できたらまず やってみる

お客様が来ないなら、その
間を社員とのディスカッショ
ンを重ねる時間にしよう、と、
何度もたくさんさんの時間を使
い、考え方の共有をしてきま
した。こうした風通しのいい
社風が、社員からの新事業の
提案や走りながら考え、実践
する風土を生んできました。
こうした背景には、東日本大
震災時の教訓が大きく生きて
います。佐藤氏は「コロナ禍
の中でも同様だった。あの経
験があったから」と話します。
「レストランでものづくり
をする」これまでサービスを
提供することを根幹にしてい
たレストランで、商品開発を



メインに据えることなど、よ
り柔軟な思考がこの危機突破
の大きなきっかけとなりました。
「3割できたらまずやっ
てみる」とにかくやってみる。
そしてうまく進まなければ、
一度退散する。こうした考え
方が多層的で面白く、魅力あ
る商品の展開につながってい
ます。

また、報告の中では社員と
取り組んできた3年連用日誌
や「新卒の高校生でもわかる
ように」と作成した先代社長、
専務が話された会社や地域、
食文化への想いを紐解いた冊
子など、普段は社外に出さな
い大切なものを現物でご持参



気仙支部宮古地域

いただき、参加者に自由にご覧いただけるようにするなど、佐藤氏の社内で日常どんな姿勢で向き合っているか、実際に感じられる時間となりました。

現在同社では、これまで外部の蔵を借りて行ってきた酒造りの復活へ向け、本気で向き合っています。近年、コンクールでも金賞を受賞、その品質は折り紙付きです。ビールやジンなどの新たな商品開発に加え、先代からの酒造り、そして餅文化への想いを大切に前へ進む佐藤航氏の報告でした。

宮古地域8月例会が8月26日（金）、シアリーナで開催されました。宮古では大震災前、宮古支部として毎月例会を行ってきましたが、震災の影響が大きく、一時的に支部活動を休止していました。この度、6月から毎月連続例会として再開が決定、報告者を招きグループ討論を丁寧に進める日常の例会が戻ってきました。

サラリーマンから経営者に

今月は「共に成長できる環境をめざして」をテーマに、紫波環境(株) 代表取締役 瀬川峰雄氏を報告者に迎え、サラリーマンから経営者に。そして同友会で経営指針を学び実践、現在では近隣の企業との合併で社員数も倍以上になりましたが、これまでのご自身の変化と会社の変化、そして後継を含めたこれからの未来像について、率直にお話いただきました。

以前はプロのバンドマンとしての道をめざしていた時期もあった瀬川氏ですが、53歳のときに一大決心をし、サラリーマンから妻の実家である紫波衛生社（当時）を継ぎました。しかしながら経営者として全く何も知らないまま代表になったことで、カル

チャーショックの連続だったと言います。そこで2009年に同友会に入会。すぐに第5期経営指針を創る会に参加しましたが、初めて聞く「経営者の責任」や「社員と共に学ぶ」という言葉に、「当時は困惑した」と話します。

経営指針をもとにした組織経営へ挑戦

周囲の熱心さに比較し、なかなかすっきりとしない日々でしたが、2011年の東日本大震災をきっかけに、沿岸被災地での同業支援、また陸前高田を拠点とした気仙支部での復興へ向けた関わり合いに心動かされ、地域があつて自分の会社もあるんだという強い思いになりました。同時に地元新聞「紫波新聞」にかかわる中で、人と地域の関係に深く興味を持ち、自分自身の心境が大きく変わっていきます。

その後紫波地区の地区会長を経て、より紫波の地域で自分達の学ぶ場をつくりたいと、地域での例会づくりを丁寧と積み重ね2014年に紫波支部の支部長、現在は紫波矢巾地区、花巻遠野地区2つの地区を束ねる県央支部の支部長として牽引されています。こうした変化の中で、後継



者がいない地域の同業者との企業合併があり、担う地域の広さも倍以上になってきました。現在では経営指針をもとにした組織経営の具現化をめざし、日々取り組んでいます。苦勞と試行錯誤しながら仲間と学び合ってきたことで大きな変化があった瀬川氏の報告は少ない人数だからこそ話せる本音やその時々的心境の変化に、参加された皆さんから驚嘆と「宮古地域でももっともっと沢山の方々とこうした学びあいがしたい」と、想いがあふれ出た例会となりました。



盛岡支部第4地区会

盛岡支部第4地区会が、8月23日（火）東日本機電開発(株)の会議室で行われました。

8月の地区会では、(株)リバイワン 代表取締役 塩田忍氏にミニ報告をしていただき、その後、質問と各社の現状をそれぞれからお話いただきました。例会ではなかなか顔をあわせる機会がない中で、地区会ならと報告を受けていただくことになった塩田氏の話に、参加者が真剣に耳を傾ける姿が印象的でした。盛岡支部では、顔が見え、本音で語れ、楽しく学べる地区会を隔月で開催していきます。

ドイツからの風



池田憲昭氏

プロフィール
1972年長崎県生まれ
岩手大学人文社会科学部(ドイツ文化専攻)卒業、フライブルク大学森林環境学ディプロム課程(修士相当)卒業
フライブルク地域を拠点に、ドイツ環境視察セミナーのオーガナイザー、異文化マネージメントのトレーナー、企業サポーター、日独プロジェクトのコーディネーター、専門通訳、ジャーナリストとして活躍されています。2011年9月Arch Joint Vision社を設立 現代表。

アニマルウェルフェア、
鶏のジェンダー平等、
公共善エコノミー

モバイル(可動式)の鶏舎



で鶏卵の生産。数日おきに草を食べる場所を変えることができる。餌場のローテーションに合わせて、鶏舎もトラクターで引っ張って移動させる。写真の養鶏場は、フライブルク近郊のシュヴァルツヴァルトの山の中で、肉牛、ガチョウ、卵用鶏の粗放的な飼育とレストラン経営を営むBIO農家Sonner家のもの。

このような形式の養鶏は、ここ10年でドイツでかなり増えた。理由は、草地での放し飼いで生産した卵の市場での需要が高いためだ。ケージ飼いのニワトリの卵は1パック10個で

1・5ユーロくらい、平飼い(地面の上で飼う)が2・5ユーロくらい、草地での放し飼いは3・5ユーロくらいする。BIO(有機)認証を受けている卵は4・5・5ユーロ(700円)するが、スーパーの商品棚には、どれも同量くらい並べられ、いつも値段の高い卵の方が先に売切れている。

BIO農家のSonner家は、鶏舎の側に設置した無人の自動販売機で1パック5ユーロで直売しているが、すぐに売り切れるという。市場の需要に応えるために生産量を増やしたいそうだが、農地が足りなくて増やせない、という状況のよう。

背景には、消費者のアニマルウェルフェアへの意識の向上がある。最近では、卵を産む雌だけでなく、オスも一緒に飼っている、もしくはオスを殺していない、という認証ラベル付きの卵も売られている。卵から孵ったオスは通常、「用無し」ということで、す

ぐに廃棄される。卵を生産しないし、肉も筋肉質であまりよくない。餌が肉になる変換効率も悪い。車で言うところの燃費の悪い車。でもスーパーでは、学校やテレビ番組で知識を得た子供たちが、ママ、パパ、おばあちゃん、おじいちゃんに「オスを殺していないこつちを買って」と言う。

オスは、用途やメリットは少ないが、まったくの用無しではない。大人に成長した雄鶏は、放し飼いの群れの中で、見張り番をする。猛禽類が上空に見えろとすぐに、声を上げて動いて、雌たちをモバイルの鶏舎へ避難誘導する。

写真は8月半ばに撮ったもの。普段だったら緑緑しい牧草地が枯れて黄土色になっている。6月から雨がほとんど降らなかった。スペインのアンダルシアのような景観になった。こんな夏のシュヴァルツヴァルトは、20年以上住んでいて初めてである。でも8月末から幸運なことに雨が少しずつ降るようになった。そして、牧草地の緑は、見る見る回復してきた。自然のたくましさを感じる。

アニマルウェルフェアも、今年2022年の12月に日本語版が出版になる『公共善エコノミー』の多様なモザイク

の一つです。

環境によく、アニマルウェルフェアの観点でも優れている商品を、高い価格で買うことは、ある程度、裕福で余裕がある人しかできない。貧しい人たちのためには、安い食糧を供給することが大切、という意見もある。でも、裕福でなくても、意識のある学生や低所得の人たちが、そのような高い卵を買って、その代わり、量を節制したり、肉や嗜好品などを抑えて、家計のバランスをとっている例もある。また、安く供給できている背景で、環境や動物の搾取だけでなく、多くの人間の搾取(グローバルサウスの問題や悪質な環境での出稼ぎ労働、生産者の疾病や障害、経営難)が起こっていることなども、一緒に議論すべきだろう。安く提供することで、貧困問題に「対応」はできる。でも根本的な解決のためには、貧困問題を起こしている現代の資本主導の経済システムにメスを入れることが必要だ。

『公共善エコノミー』は、みんなを幸せにする、倫理的な市場経済のヴィジョンと、そこにたどり着くための包括的で具体的な道を、簡潔・明瞭に描いています。

素心知困

最近一番印象に残った支部例会があります。私も含めて参加がたった6人…。▼報告者は30代の後継者。でもその報告も、一つのテーマしかできなかったグループ討論も、これまでにない、新鮮な学びと気づきの連続でした。▼保険代理店を営む実家の後継者。そこではまったく考えず、大手の保険会社に新卒で就職します。そこで出会ったのは保険をつくる側の考え方でした。しかし代理店に出向し、その立場は逆転します。▼出向先では売り上げを上げないと他店に吸収される恐怖が常につきまといまふ。ふと気づくと、大手を退社し岩手の実家に勤めていました。「誰もが働きたくなる職場を地域につくりたい。」夢は広がります。▼そこでまた新たな気づきがあります。部活動で一緒だった後輩の入社でした。就業規則についての質問が次々にきます。いつのまにか家族経営の頭に慣れていた自分がありました。▼ここで、報告者から「ところで皆さんの会社はいかがですか？」冷や汗が出る、人数ではなく持ち帰るお土産が一杯の例会。

■本紙掲載の例会や諸事業には、所属支部に関係なくどこでも参加できます。ご連絡下さい。■例会や役員会などのカレンダーと事業案内を随時更新しています。■本紙掲載事業への出欠返信は、同封のファックス返信用紙またはedyuをご利用下さい。

TUENO

包装設計のプロフェッショナル「東北ウエノ」は「適材適包」でお客様をサポート致します。

「PACKAG ENGINEERING」

詳しくはホームページで <https://www.touhokuueno.co.jp/>

株式会社東北ウエノ

〒021-0893 本社：一関市地主町3-35 TEL0191-21-4531
 テクニカルセンター：一関市地主町7-15 TEL0191-32-5020

[輸送包装便覧.com](http://transport-package.com/) <https://www.transport-package.com/>

人と自然にやさしい環境を創り地域型企業として貢献します。

岩手日化サービス株式会社

〒020-0402 盛岡市黒川 22-56
 TEL 019-696-5611 FAX 696-5614

岩手日化サービス株式会社
 〒020-0402 盛岡市黒川 22-56
 TEL 019-696-5611 FAX 696-5614

物を大切に環境にやさしくしたい 使わない人から使いたい人へ
 総合リユースショップ **DokiDoki 2nd STREET**

(株)トータル・リユース

代表取締役社長 **伊瀬 幸郎**
 ise yukiro

本社 〒026-0041 岩手県釜石市上中島町2-2-33
 TEL: 0193-21-2126 FAX: 0193-21-2127
 携帯 090-8780-3296
 E-mail: trise@arion.ocn.ne.jp

Southern Iwate DSG サザン岩手ドライビングスクールグループ
 Southern Iwate Driving School Group

陸前高田ドライビングスクール 三陸技能講習センター
 RIKUZENTAKATA DRIVING SCHOOL Sanriku skill training center

平泉ドライビングスクール 遠野ドライビングスクール
 HIRAIZUMI DRIVING SCHOOL TOHNO DRIVING SCHOOL

携帯サイトはこちら
<http://www.si-dsg.com/>
 /mobile

オリジナルラベルワインを作成します

周年記念、御中元、お歳暮、ノベルティ等

SHIWA 社名ロゴ写真 OK 包装、のし無料 12本以上作成無料

自園自蔵ワイン 紫波 岩手県産ぶどう100%

お申し込み・お問い合わせ **Tel. 019-676-5301**

自園自蔵ワイン 紫波 (株)紫波フルーツパーク
 〒028-3535 岩手県紫波郡紫波町遠山字松原1-11

ゆたかな幸せのために、より良い環境創りで真の循環型社会を目指します。

浄化槽保守点検 浄化槽汚泥収集運搬

BDFの製造・販売 BDF燃料 エネルギー燃料

紫波環境株式会社

岩手県紫波郡紫波町南日詰字小路口70-1
 TEL: 019-672-2656 FAX: 019-601-2686
<http://shiwakankyo.com/>

めだか

有限会社いわてにっかコミュニティ企画

(事業内容) デイサービス / 生活介護 / 訪問介護 / 住宅型有料老人ホーム
 児童デイサービス / 相談支援事業所 / 訪問看護 / 就労継続支援B型

節電は経費削減につながります！

オフィスの照明を見直し、経費削減を実現しませんか？
 お客様のニーズに合わせたLEDソリューションをご提案します。

長寿命 消費電力カット CO2削減 発熱が少ない

現場調査から取付工事まで、すべて平金商店へお任せ下さい！
 LEDに入れ替えた場合のコストシミュレーションも可能です。
 ぜひお気軽にご相談ください。

株式会社 **平金商店** TEL: 019-624-2121

DOYU
 I W A T E
 同友いわて
 2022 Vol.164

発行／岩手県中小企業家同友会
 広報委員会

〒020-0878 岩手県盛岡市肴町4-5 カガヤ肴町ビル3F
 TEL 019-626-4477 FAX 019-626-1644
 Mail: info@iwate-doyu.jp